

月刊

GPP



Vol.76

令和4年3月号

株式会社
グロースパートナーズ



エチオピアで大活躍！



今年の冬は寒かった。冬は冬らしく、寒に限る。

さて、先日2月19日（土）にエチオピアMNGDプロジェクトの今年度公開講座の最終回が開催され、我々が澤村先生が教壇に立たれた。セルドロン（Serdoron）の解説にかなりの時間を割いて頂いたので聴講者の方々にも幅広く認知されたと思っている。MNGDプロジェクトは勿論来年度以降も継続される。コロナ禍のおり何かと不自由のことと思うが、是非、成果を上げて頂き、エチオピアのみならず、アフリカ・サブサハラにセルドロン事業を拡げて行って頂きたい。それにしても、相変わらず澤村先生のしゃべりは小気味が良い。

また、青木あすな（Aruna Aoki）建設と長期に渡って継続している共同研究開発について、先日報告を頂いた。セルドロン単独の土壌改良に加えて、セメントを少量足すことによる効果を検証して頂いたが、いまだ道半ば。来年度以降も継続して頂けると、また新たな可能性を見出せると期待している。因みに、対生コンクリートについては東京大学・野口貴文先生（Takafumi Inokuchi）と共同研究開発をここ1年実施させて頂いているが、テーマが「CO2固定」と少し異なる点があるにせよ、いまだセルドロンの吸収力とセメント水和反応の相関関係が未知数であり、先生曰く「学術的にも興味深い」とのコメントを頂いている。これはこの上ない最大の誉め言葉、と勝手に受け止めている。

RRCS関連では、大阪万博・残コンZEROプロジェクトが始動した。勿論、セルドロンも参戦する。まだまだ、ポテンシャルだらけである。
藤井 成厚



大阪万博・残コンZEROプロジェクト

規格見直で 残コン ZERO	適正発注量で 残コン ZERO	有効利用で 残コン ZERO
大阪万博特別規格・ルールの設定 小刻みのスランプ規格の簡素化、混和材による改善等々。実際の適用上には影響を及ぼさないとと思われる現規格の修正版・特別ルールの適用	発注システムの改善（残コン抑制） 画像処理による必要量算出ソフトの活用、需要量と生コン製造量のDXによる調整。	現場内処理（破棄 ZERO） 粉砕化による再生資材化、リサイクルブロック化、路盤材等々。現場内外での再利用。

■必然的に余る生コン！

セルドロンが残コン処理材として、国交省のNETIS(新技術情報提供システム)に掲載されてからもうすぐ2年がたちます。
しかしながら、国交省の工事でも「生コンが余る」ことが設計に組み込まれていないため、残コン(余った生コン)がないことになっております。
施工会社が勝手に生コンを余らせたんだから、「自分たちで処理をしてね」ということです。

現場で「余らせてしまった生コン(余らせてしまった生コンと書いているが、必然的に余るものもある)」を処理するために、施工会社の努力として活用されています。

必然的に余ってしまう生コンがあることを公にして「余らせてしまった生コン」ではなく「余る生コン」という言葉に代わっていけばこの技術が話題になっていくと思っております。

最近では事前に発注者へ提案をしていこうという施工会社も出てきております。これは、「余らせてしまった」ではなく「余る」という前提があるから提案できることです。

私たちもできる限り協力をしたいと思っていますので、まずは、セルドロンを現場でお試してください。

■RRCSのリサイクル分科会にて

RRCS加盟の生コンプラントで、セルドロンなどの粒状化剤を使った、粒状化実験と試験練りの実験が始まります。

戻りコンや残コンを再生骨材や路盤材などに活用できることがわかれば、廃棄することなく再利用が進みます。

たくさんの生コンプラントで試験を募集しておりますので、これからでもRRCSに加盟して試験の協力をお願いいたします。

RRCSに関するお問い合わせは営業 土井まで 03-4405-2642

セルドロンに関する疑問質問は営業 土井まで  03-4405-2642